

飛魚



第 35 号

令和 6 年 8 月

社会医療法人 義順顕彰会 種子島医療センター



<https://www.tanegashima-mc.jp/>



TANEGASHIMA
MEDICAL CENTER

理 念

島民の皆さまに愛され 信頼される病院

私たちは思いやりの心と
技術を研鑽する真摯な姿勢で
豊かな地域医療の向上に努めます

基本方針

1. 地域に根ざし、信頼される病院

- 誰でも、いつでも安心して利用できる、地域に密着した病院作りをいたします。
- 救急体制を充実し、24時間対応します。
- 地域医療機関などとの連携を図り、必要に応じた役割りを果たします。

2. 温もりと思いやりのある医療を提供する病院

- 各部署の強い連携により温もりのあるチーム医療を行います。
- 患者様の権利を尊重し、安全医療の推進に努めます。
- 快適かつ安心して医療を受けられる療養環境を提供いたします。

3. 医療の質を高め、お互いに学び合える病院

- 医療人として専門知識、技術の研鑽に努めます。
- 患者様共々学びあい、ニーズに合った地域医療を目指します。

表題「飛魚」：田上悠峯 書

「悠峯」とは、義順顕彰会会長 田上容正が、公益財団法人
日本習字教育財団から命名された雅号です。

表紙について

2024年2月17日、南種子町の種子島宇宙センターから打ち上げられた新型基幹ロケット「H3ロケット」2号機の姿は、種子島医療センターの私たちに大きな感動と誇り、勇気を与えてくれました。表紙には、コロナ禍が収束し日常を取り戻し始めた2024年度を象徴する出来事として、当センター薬剤室の渡辺祥馬さんが撮影したH3ロケット打ち上げの瞬間を掲載しました。

表紙・扉写真：薬剤室 渡辺祥馬

表紙下写真：竹崎海岸灯台下の、浸食で穴の空いた岩の間から撮影した発射前のロケット。

目次 Contents

理念・基本方針

巻頭言	病院長 高尾 尊身	4
理事長挨拶	理事長 田上 寛容	6

病院概要

沿革（「飛魚」の歴史）	10
概要	22
組織図	25
委員会・会議組織図	26
在籍医師紹介	27
職員数	30
病院日誌	31

実績

種子島医療センター 統計資料	37
診療部門	45
診療支援部門	56
へき地医療センター	64
田上診療所	66
介護老人保健施設 わらび苑	68
関連施設	70

寄稿

「島」 種子島そして馬毛島	会長 田上 容正	72
石楠花の少女	副院長兼眼科部長 田上 純真	74
種子島から垣間見る大規模臨床試験	天陽会 中央病院 循環器内科 北園 和成	77
令和5年度鹿児島県医師会長賞（看護業務功労）受賞に寄せて	看護部長 園田 満治	78
種子島医療センターでの診療を振り返って		79
種子島医療センターでの研修を終えて		83

部門別紹介

【診療部】

外科（消化器・乳腺甲状腺）	87
循環器内科	88
呼吸器内科	89
消化器内科	89
眼科	90
整形外科	90
脳神経外科	91

小児科	92
小児泌尿器科	93
耳鼻咽喉科	93
肝臓内科	94
脳神経内科	95
泌尿器科	95
糖尿病内科	96
心療内科	97
血液内科	98
【看護部】	
看護部理念／看護部長室	100
外来	104
手術室・中央材料室	106
2階病棟（外科・脳外科・整形外科病棟）	107
3階西病棟（内科・眼科・小児科病棟）	109
3階東病棟（地域包括ケア病棟）	112
4階病棟（回復期リハビリテーション病棟）	114
透析室	116
外来化学療法室	118
看護助手室	119
【診療支援部】	
薬剤室	121
中央画像診断室	123
中央検査室	125
臨床工学室	126
栄養管理室	128
リハビリテーション室	130
組織図	132
チーム紹介	133
活動紹介	139
療法士修了証一覧	152
理学療法学科実習生受け入れ一覧	153
地域医療連携室	154
クラーク室	155
【事務部】	
総務課	158
医事課	159
広報企画課	160
【直轄部門】	
医療安全管理室	163
システム管理室	165
感染制御部	166
経営企画改善室	168

院内委員会活動	
NST（栄養サポートチーム）委員会	172
緩和ケアチーム	173
看護部教育委員会	174
リスクマネジメント委員会	177
医療安全管理委員会	179
化学療法委員会	180
転倒転落防止委員会	181
認知症ケアワーキンググループ	182
摂食嚥下委員会	183
輸血療法委員会	184
関連施設	
田上診療所	186
馬毛島診療所	187
訪問看護ステーション 野の花	188
訪問リハビリテーション事業所／種子島医療センター	190
訪問リハビリテーション事業所／田上診療所	191
介護老人保健施設 わらび苑	192
院内保育所	193
活動紹介	
種子島医療センターサーフィン部（TSC）	198
種子島医療センターバスケット部（MEDS）／種子島医療センターゴルフ部	199
エクスペローラーズ鹿児島	200
プロテニスプレーヤー 姫野ナル	201
緩和ケア集合研修会	203
島内学校訪問	204
令和5年度「種子島子どもまつり」参加	205
ふれあい看護体験	206
就業体験学習報告	207
ボランティア受け入れ報告	208
医療講座	209
報道・広報関係	210
研究・研修	
病院長が選ぶGOODJOB賞	218
病院長学術関連業績	219
医師業績・看護師業績	220
療士業績・リハビリテーション室研究発表会	221
院内研修会実施状況	222
研修報告書優秀者	224
永年勤続表彰者	228

種子島は 私たちを再活性化する



社会医療法人義順顕彰会
種子島医療センター
病院長 高尾 尊身

私が種子島に赴任して10年が経過した。大学病院を退官した頃に比べて心が若くなっているのでは？と思うことが多い。離島医療の面白さとやりがい、魅力と冒険に満ちた生活、種子島のパワーが私を再活性化しているのではないだろうか。

—医療混迷時代の始まり—

コロナ禍の長いトンネルを抜け出せたと思う間もなく、多くの医療機関が消えていく(閉院)時代が始まった。急激な人口減少、患者の減少、とくに若者の減少、次いで看護師不足など各種医療従事者の減少が医療機関の運営を直撃している。さらに、働き方改革はそれに拍車をかけるに違いない。日本人にじっくりこない働き方を法律で規制する。果たして、もっと働きたい、経験したいと思う年齢の医療者にとってメリットがあるのだろうか？この様な医療者にとって必要な時間は、患者にとっても大切な時間であるのだが…。

一方、時代の流れに乗り遅れまいとDX医療は急速に進み、善し悪しにかかわらず医療の効率化が加速する。今まで構築されてきた患者と医療者の関係に望まぬ変化が起こる可能性が懸念される。患者と医療者の対等な関係、さらに相互の敬意が失われ無ければ良いのだが…。

—医療従事者が陥る情熱の不活化—

私たち医療従事者は、年月が経ち、年を重ねると、やりがいを見失い、様々な誘惑、あるいは挫折、失望などから医療への情熱が徐々に失われていくのではないだろうか。医療にやりがいを感じなくなったら、孤独を感じたら自分に問いかけよう。

- ・謙虚さを失っていないだろうか？
- ・優しさを失っていないだろうか？
- ・傲慢になっていないだろうか？
- ・受けた恩を忘れていないだろうか？
- ・利己的になっていないだろうか？

—種子島医療は医療者を育み再活性化する—

私たちは一人で医療従事者になれたわけではない。家族をはじめとする多くの支援が、今の私たちを支えている。人の道を歩んでいくための大切な役割が期待されている。だからこそ、今の私たちの存在理由がある。医療従事者になった、あの時の情熱を燃やし続けることは難しいだろう。しかし、夢に向かって情熱を燃やすことが、生きるために大切であることを私たちは知っている。

急激に変化する時代の波に翻弄されながらも、私たちの種子島医療は難破せず、むしろ、未来志向で前進している。医療者はプライマリーケアの原点に触れることで、閉ざされかけた心を開き、総合力の必要性とその効果を知り、医療者としての謙虚さと潜在能力が再び蘇る。種子島はその医療者たちに、生きる、しあわせ、やりがい、そして挑戦する力を与えてくれる。

—離島医療は地域を活性化し、未来を構築する—

医療は地域にとって不可欠な構成因子である。とくに離島医療は地域の活性化に直結する。さらに、地域の未来を構築していくパワーを秘めている。



2023年度医師オリエンテーション



4年ぶりに忘年会を開催



2024年1月21日に市民公開講座を開催

理事長挨拶

“鉄砲伝来の島”となり得た種子島の気概



社会医療法人義順顕彰会
種子島医療センター
理事長 田上 寛容

種子島は鉄砲伝来の島である。

この歴史的事実は皆さんもご存じの事と思います。では、なぜ種子島が鉄砲伝来の島となり得たのでしょうか。

その頃、黄金の国ジパングと呼ばれていた日本を目指していた多くのヨーロッパ人がいました。同時代に南蛮船に乗っていた彼らの多くが鉄砲を所持していたと考えられます。もちろん種子島以外の場所にたどりついた可能性はありますが、これまで見たこともない西洋人を見て、攻撃したり上陸を許さなかった日本人も多かったと考えられ、そのために種子島以外の土地で鉄砲が伝わることはなかったのではないのでしょうか。

そんな中、嵐に会い種子島に漂着した西洋人を、島の人たちはむしろ手厚く迎えました。見たこともないような西洋人を受け入れるという方針に反対する人もいたと思われませんが、時の種子島領主である時堯公は、彼らを手厚く保護し、そして、彼らと積極的に交流を行うことで、貴重な火縄銃を手に入れることができ、種子島から全国へと鉄砲が広まっていくきっかけになったと思われれます。

鉄砲伝来の前後の歴史においても、種子島には沢山の外国船が漂着していたようです。そして種子島の人々は、そのような災難にあい、困った人々を助ける機会が多くあったとされています。だからこそ、困った人を助けるという文化が種子島には根付き、その経験があったからこそ、種子島が鉄砲伝来の島になり得たのではないかと思います。

当法人が開設して54年が経ち、種子島になくてはならない医療介護施設となることが出来たのは、これまでの職員が病気で困った多くの方々を受け入れ続けてきた結果であり、それは、この種子島の歴史と風土がその根底に流れているからだと思えます。

時代の変化とともに、離島での医療介護はますます難しさを増してきていると感じますが、当法人で脈々と受け継がれてきた、“種子島で病気に困った人がいる

のであれば当法人が受け入れる”という気概は、これから先も職員の中で受け継がれていくのだと思います。

その昔、火縄銃が“種子島”と呼ばれていた時代がありました。

私はそれを聞くと、島民の一人としてとても誇らしい気持ちになります。同じように、現在の義順顕彰会の種子島での役割を考えると、誇らしい気持ちにもなりますが、これから先の離島医療介護の困難さを考えると、ますます気を引き締めなければという思いにもなります。

ただ、毎日の診療をみていると、種子島の困った人を助けてあげたいという意志を受け継ぐ職員が、当法人には多くいると感じますし、そんな職員が力を合わせることで、義順顕彰会はこれからも島民のための法人であり続けることが出来ると確信しています。

4年ぶりに『種子島鉄砲まつり』開催

種子島に鉄砲が伝来してから480年となる2023年8月、『種子島鉄砲まつり』が4年ぶりに通常開催されました。まつりの前日となる8月19日(土)には「鉄砲伝来480周年 全国火縄銃大会」が開催され、全国から火縄銃団体が一堂に会し、戦国時代を彷彿させる装束に身を包んだ鉄砲隊が次々と火縄銃を打ち放ち、迫力ある発砲音で会場を沸かせました。

当日の20日(日)は、火縄銃の号砲を合図に太鼓山行列で祭りがスタート。太鼓山、ご神幸行列、女山車に続き、14もの子供みこしが見物客で賑わう市内を練り歩きました。午後からは鉄砲伝来の歴史を再現した南蛮行列、団体手踊りが行われ、種子島医療センターからは総勢100名の職員が参加。猛暑の中、久しぶりの祭りを楽しみました。



病院概要

沿革

概要

組織図

委員会・会議組織図

在籍医師紹介

職員数

病院日誌



沿革

黎明期 1969～1983(昭和44～58)年

1969年、会長田上容正が実家のあったこの場所に「田上容正内科」を建設。種子島の皆様に愛される病院を目指し、13床の診療所からスタート。スタッフも医療機器も足りず、十分な医療設備のない中、島民の命を守る医療を懸命に模索した。

1969(昭和44)年	12月	田上容正内科開院
1980(昭和55)年	2月	人工透析開始
1981(昭和56)年	9月	医療法人容正会設立
1982(昭和57)年	5月	28床になる

発展期 1984～1998(昭和59～平成10)年

「本土並みの医療をいつでも受けられるように」と、医療体制と質の充実を図るため施設を拡張し、高度な医療機器を導入。鹿児島大学病院から医師が派遣されるようになり、ほとんどの外科手術が可能になった。1989(平成元年)年には、創立20周年を記念して院内報『飛魚』を創刊。

1984(昭和59)年	3月	56床病院を新築 全身用CTスキャナ導入
	7月	医療法人義順顕彰会 田上病院設立
1985(昭和60)年	11月	病床数99床になる
1987(昭和62)年		救急告示病院認定
1989(平成元年)	12月	20周年記念 院内誌『飛魚』創刊



院内報「飛魚」創刊号

1990(平成2)年



第2号

1991(平成3)年

7月

介護老人保健施設わらび苑開設
(入所50床、通所10名)



第3号

1992(平成4)年



第4号



第5号

1994(平成6)年

1月

MRI設置
脳神経外科新設
標榜科目8 (内科、外科、整形外科、皮膚科、
小児科、耳鼻咽喉科、理学療法科、
脳神経外科)



第6号

2月

病床数202床になる

6月

高気圧酸素治療装置導入

7月

泌尿器科新設
標榜科目9 (内科、外科、整形外科、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、
理学療法科、脳神経外科、泌尿器科)

1995(平成7)年

1月

病床種別変更 (一般病床157床・療養型病床群45床)

3月

わらび苑 痴呆棟開設のため78床に増床
(痴呆20床、一般58床)



第7号

1996(平成8)年

11月

理学療法科をリハビリテーション科へ変更
リウマチ科新設
標榜科目10 (内科、外科、整形外科、皮膚科、
小児科、耳鼻咽喉科、リハビリテー
ション科、脳神経外科、泌尿器科、
リウマチ科)



第8号

沿革

1997(平成9)年	4月	眼科新設 標榜科目11 (内科、外科、整形外科、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、脳神経外科、泌尿器科、リウマチ科、眼科)
	5月	訪問看護ステーション「野の花」開設
1998(平成10)年		院外処方箋運用開始



第9号



第10号

転換期 1999～2009(平成11～20)年

病棟の再編を重ね、いち早く電子カルテを導入するなど、さらなる充実を目指し、新たな医療に挑む。こうした離島医療への貢献が認められ、当時理事長であった田上容正は2007(平成19)年に医療功労賞、2008(平成20)年に県民表彰を受賞。2009(平成21)年には『飛魚』が院内報から年報誌に。

1999(平成11)年	4月	田上病院院長に田上容祥就任
	6月	理学療法Ⅱ認可
	7月	種子島サンセット車いすマラソン大会に救護ボランティアとして参加
2000(平成12)年	2月	麻酔科、放射線科新設 標榜科目13 (内科、外科、整形外科、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、脳神経外科、泌尿器科、リウマチ科、眼科、麻酔科、放射線科)



第11号



第12号

2001(平成13)年	2月	6階建に増築
	5月	作業療法Ⅱ認可



第13号

2002(平成 14)年

電算室増築

8月

循環器科新設・リウマチ科廃止
 標榜科目13 (内科、外科、整形外科、皮膚科、
 小児科、耳鼻咽喉科、リハビリ
 テーション科、脳神経外科、泌尿器科、
 眼科、麻酔科、放射線科、循環器科)



第 14 号

2003(平成 15)年

2月

オーダーリングシステム稼働 (シーエスアイ)

4月

田上診療所開設 (所長に竹野孝一郎就任)

5月

第二種感染病床 2 床、結核モデル病床 2 床 使用許可

6月

病床種別変更 (一般病床157床から202床に
 <うち第二種感染症病床 2 床>・結核モデル病床
 2 床新設・療養型病床群廃止)

8月

病床種別変更 (一般病床202床のうち、回復期
 リハビリテーション病棟36床認可)
 看護支援システム稼働



第 15 号

2004(平成 16)年

1月

電子カルテシステム (診療記録)
 稼働 (シーエスアイ)

5月

心臓カテーテル検査開始

6月

病院機能評価 複合B認定
 地域リハビリテーション広域支援センター指定

10月

病棟再編
 内科病棟・整形病棟移動



第 16 号

2005(平成 17)年



第 17 号

2006(平成 18)年

4月

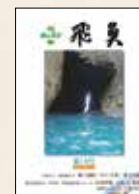
病棟再編
 15対1 入院基本料 (166床)
 結核入院基本料 (2 床)
 回復期リハビリテーション病棟 (36床)



第 18 号

沿革

2007(平成 19)年	5月	病棟再編 15対1 入院基本料 (202床) 3階東病棟 回復期リハビリ病棟の取り下げ 3階東病棟、4階病棟移動 結核モデル病床2床
	7月	病棟再編 15対1 入院基本料 (154床) 結核入院基本料 (2床) 4階病棟 回復期リハビリテーション病棟 (48床)
	9月	13対1 入院基本料 (154床)
	11月	10対1 入院基本料 (154床)
2008(平成 20)年	1月	心療内科新設 標榜科目14 (内科、外科、整形外科、皮膚科、 小児科、耳鼻咽喉科、リハビリ テーション科、脳神経外科、 泌尿器科、眼科、麻酔科、 放射線科、循環器科、心療内科) 田上容正理事長「医療功労賞」受賞
	12月	看護師寮新築
2009(平成 21)年	4月	中央材料室・手術室改築 田上容正理事長「県民表彰(鹿児島県)」 「市民表彰(西之表市)」受賞
2009(平成 21)年	4月	亜急性期病床 8床運用開始 (3階東病棟 8床) DPC請求開始 管理棟新築 呼吸器科新設 標榜科目15 (内科、外科、整形外科、皮膚科、 小児科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、 脳神経外科、泌尿器科、眼科、麻酔科、放射線科、 循環器科、心療内科、呼吸器科) 『飛魚』が年報誌に



第19号



第20号

5月	薬局改築 安全キャビネット・クリーンベンチ導入
6月	「日本医療機能評価Ver5.0」 認定
9月	亜急性期病床12床へ増床（3階東病棟8床、3階西病棟4床）
10月	田上病院開院40周年記念式典

飛躍期 2010～2019(平成22～令和元)年

種子島をはじめ、熊毛医療圏の地域中核病院としての責任を果たすため、社会医療法人として再出発。創立からの目標であった島内完結医療の実現に向け、他の医療施設や介護保険施設と連携を取り、未来を見据えた新しい離島医療に取り組む。

2010(平成22)年

2月	リウマチ科新設 標榜科目16（内科、外科、整形外科、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、麻酔科、放射線科、循環器科、心療内科、呼吸器科、リウマチ科）
4月	社会医療法人認定、改組 会長に田上容正就任 理事長に田上寛容就任
6月	副院長に田上純真就任
8月	ハイケアユニット4床設置（2階病棟） 鉄砲まつり手踊り参加
12月	「鹿児島県がん診療指定病院」指定



第21号

2011(平成23)年

4月	消化器内科新設 標榜科目17（内科、外科、整形外科、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、麻酔科、放射線科、循環器科、心療内科、呼吸器科、リウマチ科、消化器内科）
----	--



第22号

沿革

	8月	新電子カルテシステム稼働（ソフトウェア・サービス）		
2012(平成 24)年	9月	亜急性期病床16床へ増床 （3階東病棟12床、3階西病棟4床）	 第23号	
	11月	ハイケアユニット4床廃止		
2013(平成 25)年	1月	介護保険訪問リハビリ開設	 第24号	
	4月	亜急性期病床20床へ増床（2階病棟8床、 3階東病棟8床、3階西病棟4床）		
	5月	320列CT導入 MRI更新 検査室、小児科周り改修工事		
2014(平成 26)年	1月	X線TV装置（X線透視装置）更新		
	2月	生化学検査機器更新 自動精算機1、2号機更新		
	3月	DMAT隊結成		
	4月	副会長に田上容祥就任 病院長に高尾尊身就任 副院長に山口智代子就任		
	8月	放射線室内ネットワーク機器更新		
	9月	検査画像統合システム・放射線情報管理システム更新		
	10月	亜急性期病床廃止 遠隔医療支援システム（SCOPIA）稼働		
	12月	自動分包機稼働		
	2015(平成 27)年	1月	病棟再編 3階東病棟 地域包括ケア病棟42床	  第25号 第26号

4月	<p>脳神経外科医師の非常勤体制開始 (常勤医不在)</p> <p>へき地診療支援センター開設 (センター長に猿渡邦彦就任)</p> <p>法人事務局長に羽生守彦就任</p> <p>肝臓内科、腎臓内科、血液内科、糖尿病内科、神経内科、 消化器外科、肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺・甲状腺外科新設</p> <p>標榜科目25 (内科、外科、整形外科、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、 リハビリテーション科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、 麻酔科、放射線科、循環器科、心療内科、呼吸器科、 リウマチ科、消化器内科、肝臓内科、腎臓内科、 血液内科、糖尿病内科、神経内科、消化器外科、 肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺・甲状腺外科)</p>
5月	<p>遠隔病理診断システム導入</p> <p>末血検査機器更新</p> <p>医師住宅5棟完成(松島)</p> <p>ステラッド滅菌器更新</p> <p>ペインクリニック内科新設</p> <p>標榜科目26 (内科、外科、整形外科、皮膚科、小児科、耳鼻咽喉科、 リハビリテーション科、脳神経外科、泌尿器科、眼科、 麻酔科、放射線科、循環器科、心療内科、呼吸器科、 リウマチ科、消化器内科、肝臓内科、腎臓内科、 血液内科、糖尿病内科、神経内科、消化器外科、 肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺・甲状腺外科、 ペインクリニック内科)</p>
6月	鼻用手術装置導入
7月	<p>田上診療所休診(8月末まで)</p> <p>耳鼻科手術開始</p>
8月	<p>回転用X線撮影装置更新</p> <p>外科用X線テレビシステム更新</p>
9月	病理解剖1例目実施
10月	脳神経外科 常勤医師による診療開始

沿革

2016(平成 28)年

- 1月 無停電源装置更新
- 3月 結核病棟の陰圧工事
- 4月 病院名を種子島医療センターに変更
 病院長補佐に花園幸一外科部長、北園和成内科部長を任命
 看護局長に山口智代子就任
 看護部長に戸川英子就任
- 5月 「地域がん診療病院」指定(厚生労働省)
 がんサロン「サロン種子島」開設
 医師住宅(単身赴任者用)2棟完成(松島)
 眼底撮影システム一式更新
- 8月 全自動散剤分包機(Sinngle-R93Z II)更新
- 9月 病院内空調機更新
 訪問リハビリテーションを訪問看護ステーション「野の花」に編入
- 10月 鹿児島県行政視察(県議会環境厚生委員会)
- 12月 超音波診断装置ARIETTA70更新
 生体情報モニターシステム(オムロンV7000)更新



第27号

2017(平成 29)年

- 1月 種子島医療センター病院祭
- 2月 病理解剖2例目実施
- 3月 医師住宅2棟完成
- 4月 わらび苑施設長に猿渡邦彦就任
- 5月 鹿児島県総合防災訓練参加(DMAT隊)
- 7月 内視鏡室改修および内視鏡システム更新
- 9月 ベッド更新10台
- 10月 「日本ヒト細胞学会学術集会 in 種子島」開催(大会会長 高尾尊身病院長)
 DMAT訓練に参加



第28号

2018(平成 30)年

- 3月 平成29年度西之表市災害対策訓練参加
医師住宅 2 棟完成
- 4月 わらび苑施設長 猿渡邦彦 種子島医療センターへ異動
わらび苑施設長に池村紘一郎就任
ベッド更新50台
看護師特定行為研修者養成開始 (2名を鹿児島大学へ派遣)
- 6月 IABP装置導入
「Life on the long board 2nd wave」映画撮影
- 7月 ベッドサイドモニター 2 台
人工呼吸器 2 台増設
- 8月 副病院長に濱之上雅博就任
眼科用検査機器一式更新
鉄砲まつり手踊り参加
救急自動車導入
- 9月 「ジロ・デ・種子島2018」サイクリング大会救護支援
- 10月 種子島医療センター看護PR大使に松原奈佑さん (女優) を任命
- 11月 病理解剖 3 例目実施
電話機交換、配線工事
厨房床改修工事
日本病院機能評価機構による病院機能評価 受審
病院近隣土地の購入 (1,940.86㎡)



第 29 号


2019(平成 31/令和元年)年

- 1月 社会医療法人に係る実地検査 (鹿児島県)
- 3月 駐車場拡張工事
- 4月 鹿児島大学に寄付講座「心血管病予防分析学講座」設置
事務部に広報企画課設置
- 5月 病院機能評価 (3rdG : Ver. 2.0) 「一般病院 2」認定



第 30 号

沿革

2020(令和2)年	3月	法人事務局長 羽生守彦氏 辞職	 <p>第31号</p>
	4月	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、入院患者への面会制限開始	
	7月	発熱・接触者外来（簡易診察室）設置・稼働開始 モバイルリアルタイムPCR装置導入 行政合同(保健所・1市2町)での新型コロナウイルス対策本部設置 新型コロナウイルス感染症患者の搬送訓練実施（合同訓練）	
	8月	HER-SYS稼働開始 通信機器を用いたオンライン面会開始 eラーニングシステムを用いた院内研修開始	
	11月	新型コロナウイルス感染症等入院病床 協力医療機関指定	
2021(令和3)年	1月	職員宿舎建設予定地購入（1,208㎡）	
	2月	新型コロナウイルス感染症等入院病床 重点医療機関指定 法人看護局長 山口智代子氏 退任	
	3月	モバイルリアルタイムPCR装置2台目導入 医療従事者への新型コロナワクチン接種1回目実施 田上診療所院長 竹野孝一郎氏 辞職	
	4月	医療従事者への新型コロナワクチン接種2回目実施 田上診療所院長 岩元二郎氏 就任	
	5月	職員宿舎建設着工	
	6月	病院北側駐車場新設 3階西病棟トイレ大規模改修工事 ベッドパンウォッシャー4台導入	
	8月	2階病棟多目的トイレ オストメイト改修工事	
	10月	職員宿舎（スカイブルーハイツ）2棟 完成	

2021(令和3)年 12月 医療従事者への新型コロナワクチン接種3回目実施
2階、3階ロビー大規模改修工事
わらび苑施設長 池村紘一郎氏 辞職



第32号

2022(令和4)年 1月 わらび苑施設長 猿渡邦彦氏 就任

3月 わらび苑施設長 猿渡邦彦氏 辞職
救急チーム結成

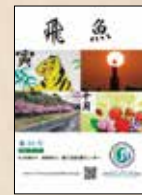
5月 わらび苑施設長 松本松昱氏 就任

6月 3階西病棟空調機器更新

8月 医療従事者への新型コロナワクチン接種4回目

9月 全自動化学発光酵素免疫測定装置
(AIA-CL1200ST)導入

10月 X線骨密度測定装置 (Horizon C) 導入



第33号

2023(令和5)年 2月 外科用X線テレビシステム (OPESCOPE ACTENO) 導入
許可病床数変更 204床 → 188床
2階病棟 55床 → 47床
3階西病棟 59床 → 51床

4月 入院基本料区分変更
急性期一般入院料4 → 急性期一般入院料1
看護部長に園田満治就任

7月 馬毛島巡回診療開始

2024(令和6)年 2月 馬毛島診療所開設

3月 入院基本料区分変更
急性期一般入院料1 → 急性期一般入院料2
回復期リハビリテーション病棟入院料1
→ 回復期リハビリテーション病棟入院料3



第34号

概要

- 1) 名称 社会医療法人 義順顕彰会 種子島医療センター
- 2) 所在地 〒891-3198
鹿児島県西之表市西之表 7463 番地
- 3) 電話・FAX 電話：0570-090960 FAX：0997-22-1313
- 4) メールアドレス master@tanegashima-mc.jp
- 5) ホームページ <http://www.tanegashima-mc.jp>
- 6) 開設者 社会医療法人 義順顕彰会
- 7) 管理者 高尾 尊身
- 8) 診療科目 内科、消化器内科、循環器内科、外科、整形外科、脳神経外科、小児科
〔26科〕
眼科、リハビリテーション科、麻酔科、リウマチ科、皮膚科、泌尿器科
耳鼻咽喉科、放射線科、呼吸器内科、心療内科、神経内科、血液内科
糖尿病内科、肝臓内科、腎臓内科、消化器外科
肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺・甲状腺外科
- 9) 病床数 188床（うち3階西病棟に感染症病床2床）

病棟名	主診療科	病床数	4床室	2床室	1床室
2階病棟	外科 整形外科 脳神経外科	47	9	3	5
3階西病棟	内小児科 眼科	51	9	5	5
3階東病棟	地域包括 ケア	42	7	4	6
4階病棟	回復期 リハビリ	48	9	3	6
合計		188	34	15	22

10) 指定種別

① 保険・公費負担医療機関

感染症指定医療機関（第二種）

感染症指定医療機関（結核）

労災保険指定医療機関

指定自立支援医療機関（育成医療）

指定自立支援医療機関（更生医療）

指定自立支援医療機関（精神通院医療）

生活保護指定医療機関

特定疾患治療研究事業委託医療機関

小児慢性特定疾患治療研究事業委託医療機関

肝炎治療特別促進事業指定医療機関

戦傷病者特別援護法指定医療機関

原子爆弾被害者医療指定・原子爆弾被害者一般疾病医療取扱医療機関

新型コロナウイルス感染症重点医療機関

② 病院機能

D P C 対象病院

へき地医療指定病院

災害拠点病院

D M A T 指定病院

救急告示病院Ⅱ類（救急指定二次）
 S A R S 受入医療機関
 エイズ治療・協力病院
 地域がん診療病院
 難病医療指定協力医療機関
 特定健診委託医療機関
 結核予防法指定病院
 結核ハイリスク者健診事業受託医療機関
 人間ドック契約病院
 ATL 検査委託実施医療機関
 肝炎診療専門医療機関
 消化器がん検診精密検査実施協力医療機関
 大腸がん検診精密検査実施協力医療機関
 肺がん検診精密検査実施協力医療機関
 予防接種相互乗り入れ医療機関
 日本整形外科学会認定研修施設
 日本麻酔学会麻酔科認定病院
 臨床研修関連病院
 日本外科学会外科専門医制度関連施設
 日本消化器内視鏡学会連携施設
 地域リハビリテーション広域支援センター
 理学療法士臨床実習指導施設
 作業療法士臨床実習指導施設
 日本内科学会認定医教育関連病院
 日本がん治療認定医機構認定研修施設
 日本肝臓学会肝臓専門医特別連帯施設

11) 施設基準

① 基本診療料の施設基準

- 第 309 号 一般病棟入院基本料（急性期一般入院料1）※R6.3月より急性期2
- 第 14 号 救急医療管理加算
- 第 9 号 診療録管理体制加算 1
- 第 12 号 医師事務作業補助体制加算 1
- 第 3 号 急性期看護補助体制加算（25対1 看護補助者 5 割以上）
- 第 85 号 療養環境加算
- 第 461 号 重症者等療養環境特別加算
- 第 25 号 栄養サポートチーム加算
- 第 57 号 医療安全対策加算 2
- 第 32 号 感染防止対策加算 1
- 第 37 号 後発医薬品使用体制加算 2
- 第 21 号 データ提出加算
- 第 211 号 入退院支援加算
- 第 56 号 認知症ケア加算
- 第 52 号 せん妄ハイリスク患者ケア加算

② 特定入院料

- 第 11 号 小児入院医療管理料 5
- 第 28 号 回復期リハビリテーション病棟入院料1※R6.3月より回復期3
- 第 48 号 地域包括ケア病棟入院料 1

③ 特掲診療料の施設基準

- 第 153 号 がん性疼痛緩和指導管理料
- 第 41 号 がん患者指導管理料イ
- 第 34 号 がん患者指導管理料ロ
- 第 23 号 小児科外来診療料
- 第 23 号 二次性骨折予防継続管理料 1
- 第 25 号 二次性骨折予防継続管理料 2
- 第 46 号 二次性骨折予防継続管理料 3
- 第 40 号 救急搬送看護体制加算
- 第 3 号 外来腫瘍化学療法診療料 1
- 第 345 号 ニコチン依存症管理料
- 第 21 号 がん治療連携計画策定料
- 第 2 号 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
- 第 168 号 薬剤管理指導料
- 第 66 号 医療機器安全管理料 1
- 第 13 号 在宅患者訪問看護指導料
- 第 99 号 検体検査管理加算 (I)
- 第 47 号 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- 第 28 号 ヘッドアップティルト試験
- 第 93 号 神経学的検査
- 第 187 号 コンタクトレンズ検査料 1
- 第 17 号 小児食物アレルギー負荷検査
- 第 288 号 CT 撮影及びMR I 撮影
- 第 21 号 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- 第 93 号 外来化学療法加算 1
- 第 61 号 無菌製剤処理料
- 第 56 号 脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
- 第 96 号 運動器リハビリテーション料 (I)
- 第 134 号 呼吸器リハビリテーション料 (I)
- 第 49 号 がん患者リハビリテーション料
- 第 14 号 認知療法・認知行動療法 1
- 第 81 号 人工腎臓
- 第 69 号 導入期加算 1
- 第 3 号 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
- 第 80 号 ペースメーカー移植術及びメースメーカー交換術
- 第 38 号 大動脈バルーンポンピング法 (I A B P 法)
- 第 41 号 医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に掲げる手術
- 第 17 号 輸血管理料 II
- 第 2 号 輸血適正使用加算
- 第 26 号 人工肛門・人口膀胱造設術前処置加算
- 第 22 号 胃ろう造設時嚥下機能評価加算
- 第 101 号 麻酔管理料 (I)
- 第 16 号 保険医療機関間の連携による病理診断
- 第 6 号 保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製

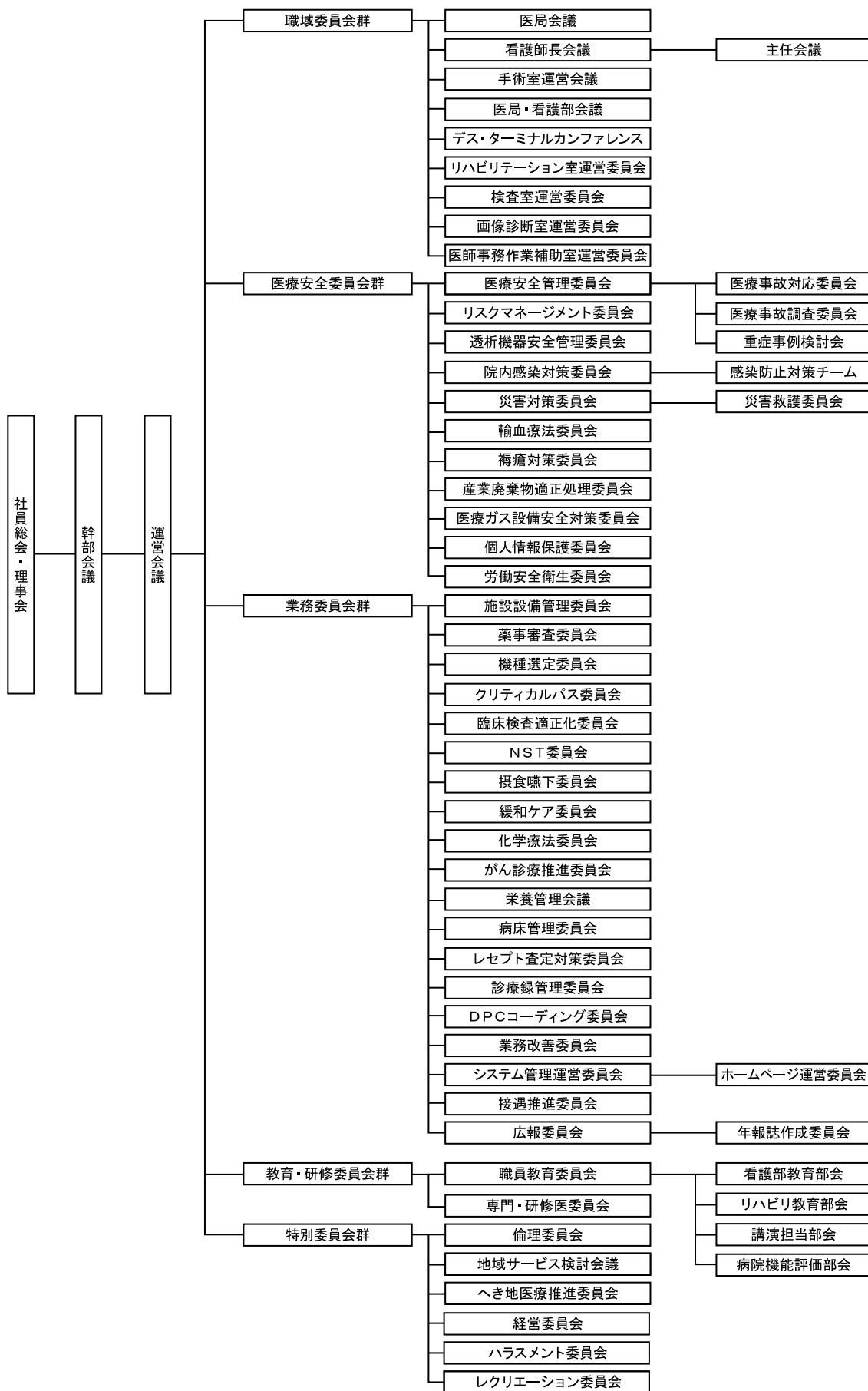
④ 入院時食事療養及び入院時生活療養

- 第 335 号 入院時食事療養 (I) ・入院時生活療養 (I)

⑤ その他の施設基準

- 第 42914 号 酸素の購入単価

委員会・会議組織図



病院概要

実績

寄稿

部門紹介

院内委員会

関連施設

活動紹介

研究・研修

在籍医師紹介

(2024年4月付)



社会医療法人義順顕彰会 会長

田上 寛正

専門分野
内科一般
所属学会
日本内科学会



種子島医療センター理事長

田上 寛容

専門分野
内科一般、循環器疾患
所属学会
日本内科学会
日本プライマリ・ケア学会



種子島医療センター病院長

高尾 尊身

専門分野
外科一般、消化器外科、肝胆膵外科、消化器がん
所属学会
日本外科学会 日本消化器外科学会
日本消化器病学会 日本肝胆膵外科学会
日本ヒト細胞学会 日本癌学会
日本癌治療学会

内科・総合診療科



診療科医長

島田 紘一

専門分野
内科一般、消化器内科
所属学会
日本内科学会
日本臨床内科医会
日本消化器病学会
日本消化器内視鏡学会

循環器内科



循環器内科部長

藪田 剛嗣

専門分野
循環器全般
所属学会
日本内科学会
日本循環器学会
日本心血管インターベンション治療学会
日本経カテーテル心臓弁治療学会



循環器内科医長

東 祐大

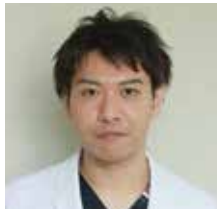
専門分野
循環器内科
所属学会
日本内科学会
日本循環器学会
日本心血管インターベンション治療学会
日本心臓リハビリテーション



循環器内科副医長

小牟禮 大地

専門分野
循環器内科
所属学会
日本内科学会
日本循環器学会



川島 吉博

専門分野
内科一般、循環器疾患
所属学会
日本内科学会
日本循環器学会
(2022年4月～2024年3月在籍 循環器内科部長)



下園 夏帆

専門分野
循環器内科
所属学会
日本内科学会
日本循環器学会
(2022年4月～2024年3月在籍 循環器内科医長)

外科



種子島医療センター副院長

濱之上 雅博

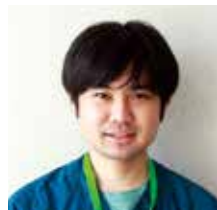
専門分野
外科一般、消化器外科、肝胆膵外科、消化器がん
所属学会
日本外科学会
日本消化器外科学会
日本消化器病学会
日本肝臓学会
日本肝胆膵外科学会



外科主任部長

大久保 啓史

専門分野
消化器外科(上部消化管)
所属学会
日本外科学会
日本消化器外科学会
日本臨床外科学会
日本内視鏡外科学会
日本消化器病学会
日本消化器内視鏡学会
日本胃癌学会



外科医長

金城 多架良

専門分野
外科・消化器外科
所属学会
日本外科学会
日本消化器外科学会
日本内視鏡外科学会
日本外科感染症学会



佐竹 霜一

専門分野
消化器外科
所属学会
日本外科学会
日本消化器外科学会
日本内視鏡外科学会
日本胃癌学会
日本大腸肛門病学会
(2022年4月～2024年3月在籍 消化器外科部長)

病院概要

実績

寄稿

部門紹介

院内委員会

関連施設

活動紹介

研究・研修

在籍医師紹介

病院概要

実績

寄稿

部門紹介

院内委員会

関連施設

活動紹介

研究・研修

整形外科



整形外科部長

瀬戸山 傑

専門分野
外傷、骨折
所属学会
日本整形外科学会
日本骨折治療学会
日本股関節学会



整形外科医長

脇丸 祐

専門分野
整形外科一般
所属学会
日本整形外科学会



整形外科副医長

吉元 秋穂

専門分野
一般整形
所属学会
日本整形外科学会
日本関節病学会
西日本整形・災害外科学会



岩崎 正大

専門分野
一般整形
所属学会
日本整形外科学会
(2023年4月～2024年3月在籍 整形外科主任医長)



岩下 稜

専門分野
一般整形
所属学会
日本整形外科学会
(2023年4月～2024年3月在籍 整形外科医長)

眼科



田上 純真

専門分野
眼科全般
所属学会
日本眼科学会

脳神経外科



脳神経外科部長

田上 なつ子

専門分野
脳神経外科全般
所属学会
日本脳神経外科学会
日本脳神経血管内治療学会
日本脳卒中学会



脳神経外科医長

森川 将行

専門分野
脳神経外科一般
所属学会
日本脳神経外科学会
日本脳神経血管内治療学会



駒柵 宗一郎

専門分野
脳神経外科全般
所属学会
日本脳神経外科学会
日本脳神経血管内治療学会
日本脳卒中学会
(2020年10月～2024年3月在籍 脳神経外科部長)



山中 彩衣

専門分野
脳神経外科
所属学会
日本脳神経外科学会
(2023年4月～2024年3月 脳神経外科医長)

小児科



田上診療所院長 / 小児科部長

岩元 二郎

専門分野
小児科全般、発達障害
所属学会
日本小児科学会
日本小児救急医学会
日本外来小児科学会



小児科医長

塩川 直宏

専門分野
小児循環器
所属学会
日本小児科学会
日本小児循環器学会
日本小児呼吸器学会
日本小児心電学会



小児科医長

西 遼太郎

専門分野
小児科
所属学会
日本小児科学会
日本臨床栄養代謝学会



三浦 希和子

専門分野
小児科
所属学会
日本小児科学会
日本周産期・新生児医学会
日本小児内分泌学会
日本内分泌学会
日本新生児生育医学会
(2023年4月～2024年3月在籍 小児科医長)

在籍医師紹介

泌尿器科



泌尿器科部長

中目 康彦

専門分野
泌尿器科一般、透析
所属学会
日本泌尿器科学会
日本透析医学会

呼吸器内科



松山 崇弘

専門分野
呼吸器内科
所属学会
日本内科学会
日本呼吸器学会
日本結核病学会
日本呼吸器内視鏡学会
日本アレルギー学会
(2022年4月～2023年7月在籍 呼吸器内科科長)



谷川 健悟

専門分野
呼吸器内科、内科一般
所属学会
日本内科学会
日本呼吸器学会
日本呼吸器内視鏡学会
日本肺癌学会
(2023年8月～2023年9月在籍)

消化器内科



消化器内科部長

宮田 尚幸

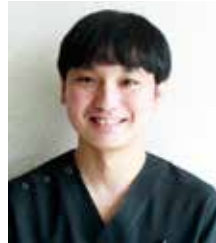
専門分野
消化器疾患
所属学会
日本内科学会
日本消化器病学会
日本消化器内視鏡学会



消化器内科医長

徳田 弘幸

専門分野
消化器内科
所属学会
日本内科学会
日本消化器病学会
日本消化器内視鏡学会



松元 琢真

専門分野
消化器疾患
所属学会
日本内科学会
日本消化器病学会
日本消化器内視鏡学会
(2023年4月～2024年3月在籍 消化器内科科長)

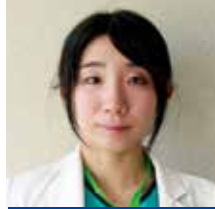
糖尿病内科



糖尿病内科科長

久保 智

専門分野
糖尿病内科
所属学会
日本内科学会
日本内分泌学会
日本糖尿病学会
日本甲状腺学会
日本超音波学会



糖尿病内科医長

中村 香織

専門分野
糖尿病内科、内分泌
所属学会
日本内科学会
日本糖尿病学会
日本内分泌学会



地頭菌 公宏

専門分野
糖尿病内科
所属学会
日本糖尿病学会
日本内分泌学会
日本内科学会
(2023年4月～2024年3月在籍 糖尿病内科医長)

麻酔科



災害医療・病院長補佐

高山 千史

専門分野
麻酔科全般
所属学会
日本麻酔科学会

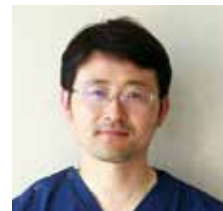


麻酔科部長

多田 直綱

専門分野
麻酔全般、区域麻酔
所属学会
日本麻酔科学会
日本ペインクリニック学会
日本区域麻酔学会

放射線科



放射線科部長兼救急科科長

野田 健仁

専門分野
救急診療、画像診断
所属学会
日本内科学会
日本医学放射線学会
日本インターベンショナルラジオロジー学会
日本救急医学会

職員数

(各年度4月1日現在) 単位：人

	H30年度		H31年度		R2年度		R3年度		R4年度		R5年度	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
医師	19		20		19		21		23		24	
看護師	(計174)	(計 22)	(計171)	(計 25)	(計166)	(計 27)	(計163)	(計 29)	(計151)	(計 32)	(計152)	(計 37)
正看護師	89	7	96	9	94	7	93	8	79	8	73	10
准看護師	39	4	35	4	31	4	29	3	27	5	21	8
看護助手	33	8	28	9	32	10	32	11	33	12	31	10
クラーク	13	3	12	3	9	6	9	7	12	7	12	7
薬剤師	5	0	5	0	5	0	4	1	4	0	3	1
放射線技師	8	0	7	0	7	0	8	0	9	0	7	0
臨床検査技師	5	1	5	1	5	1	5	1	5	1	5	1
リハビリテーション室	(計 62)	(計 1)	(計 64)	(計 1)	(計 64)	(計 2)	(計 68)	(計 1)	(計 59)	(計 1)	(計 60)	(計 1)
理学療法士	32	1	38	1	37	2	42	1	35	1	29	1
作業療法士	20	0	19	0	19	0	19	0	18	0	15	0
言語聴覚士	7	0	4	0	5	0	6	0	6	0	6	0
あん摩指圧	3	0	3	0	3	0	1	0	0	0	0	0
臨床工学技士	10	0	10	0	10	0	9	0	7	0	7	0
管理栄養士	2	0	4	0	4	0	3	0	3	0	3	0
医事課	(計 11)	(計 11)	(計 10)	(計 12)	(計 10)	(計 12)	(計 13)	(計 11)	(計 10)	(計 11)	(計 10)	(計 11)
" (入院)	3	0	3	0	3	0	3	0	3	0	3	0
" (外来)	8	4	7	6	7	6	10	4	7	4	7	1
" (フロア)	0	5	0	4	0	4	0	4	0	4	0	3
" (電話)	0	2	0	2	0	3	0	3	0	3	0	3
医療情報管理	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0
システム管理室	1	0	1	0	1	0	4	0	3	0	3	0
地域医療連携室	2	0	2	0	2	0	3	0	3	0	3	0
事務室	10	1	10	1	9	1	11	1	9	2	12	2
庶務	3	7	3	8	3	6	3	6	3	6	3	7
用度管理室	2	0	2	0	2	0	2	0	2	1	2	0
保育所	5	1	3	2	3	2	3	3	3	1	3	1
その他	5	3	7	3	7	3	7	3	7	4	8	3
合計	325	47	325	53	318	55	328	56	302	60	281	58

年	月	日	内 容
令和5年	4	1	新入職辞令交付式
		3~5/31	研修医受入（鹿児島大学病院 1名）
	5	1~6/30	研修医受入（鹿児島大学病院 1名）
		16	感染防止対策向上地域連携カンファレンス
		20	「へいじろう」2023春 第65号発刊
		28	こども祭りイベント参加（西之表商工会主催）
		30	第57回 研修医症例発表会～研修を終えて～ 村上 祐一先生(鹿児島大学病院)
	6	1~30	研修医受入（北海道大学病院 1名）
		1~7/28	研修医受入（鹿児島大学病院 1名）
		17	鹿児島県医師会長賞「看護業務功労賞」受賞 中本 利津子
		26	第58回 研修医症例発表会～研修を終えて～ 池田 憲司郎先生(鹿児島大学病院) 松浦 美郷先生(北海道大学病院)
		28	インスタグラム配信開始
	7	3	めいろうこども園 七夕飾り贈呈
		3~28	研修医受入（福岡大学病院 2名）
		3~8/30	研修医受入（鹿児島大学病院 1名）
		12	感染対策向上加算1地域連携相互ラウンド 評価実施病院：鹿児島市立病院
		15	馬毛島巡回診療開始
		21	西之表市教育委員会主催：浦田遠泳大会（医師派遣）
		24	第59回 研修医症例発表会～研修を終えて～ 埜田 千里先生（福岡大学病院） 尾崎 知佳先生（福岡大学病院） 山中 菜央先生（鹿児島大学病院）
		27	地域がん診療病院がん医療従事者研修事業 鹿児島がんゲノム連携セミナー 座長：副院長 瀧之上 雅博先生 『鹿児島市立病院でのがんゲノム医療の実際』 演者：鹿児島市立病院 腫瘍内科 科長 中澤 潤一先生
28		医療安全対策地域連携加算に係る相互評価訪問 評価実施施設：鹿児島市立病院	
29		ふれあい看護体験（種子島高校生 16名、種子島中央高校生 8名）	
8	1~30	研修医受入（福岡大学病院 1名、北海道大学病院 1名）	
	4	台風6号に伴う対策会議	
	10	「へいじろう」2023夏 第66号発刊	
	20	第54回 種子島鉄砲まつり 団体手踊り参加	
	21~25	職員健診・ストレスチェック実施	
	22	感染防止対策向上地域連携カンファレンス	
	22	第60回 研修医症例発表会～研修を終えて～ 山本 健太先生（北海道大学病院） 落合 祐生先生（福岡大学病院） 永井 廉士先生（鹿児島大学病院）	
	25	地域がん診療病院がん医療従事者研修事業 『がん薬物療法における 悪心・嘔吐対策』 講師：副看護師長・がん化学療法看護認定看護師 山之内 信	
	29	院内勉強会 『コードストロークについて』 講師：脳神経外科部長・救急診療科長 駒柵 宗一郎先生	
	31	年報誌「飛魚」第34号発刊	

病院概要

実績

寄稿

部門紹介

院内委員会

関連施設

活動紹介

研究・研修

病院日誌

年	月	日	内 容	
令和5年	9	1～30	研修医受入（鹿児島医療センター 2名、北海道大学病院 1名）	
		1～10/31	研修医受入（鹿児島大学病院 1名）	
		9	救急医療県民講座（西之表保健センターすこやか） 『気づきが救う！命をつなぐ家庭の救急講座』 講師：診療看護師・副看護部長 竹之内 卓	
		14	医療監視（西之表保健所による立入検査）	
		14、15	多職種連携による口腔ケア整備体制事業 講師：えのもと 歯科医院 榎本 孝先生 9/14 口腔ケア座学研修会 9/15 口腔ケア模擬指導	
		22	第7回 ケアカフェたねがしま	
		25～10/31	医療安全研修会 eラーニング 『指差呼称を実践しよう!!』 講師：医療安全管理者 芝 英樹	
		27	第61回 研修医症例発表会～研修を終えて～ 齋藤 航先生（北海道大学病院） 坂江 卓哉先生（鹿児島医療センター） 富山 高至先生（鹿児島医療センター）	
		10	2～31	研修医受入（鹿児島医療センター 1名）
			2～11/30	研修医受入（福岡大学病院 1名）
	14		地域がん診療病院がん医療従事者研修事業 『がんリハビリテーションの目的と職種ごとのリハビリテーション』 講師：リハビリテーション室 作業療法士 市来 政樹 理学療法士 浜崎 夏帆 言語聴覚士 入江 色葉	
	11～13		種子島中央高等学校就業体験学習 1名	
	16～11/4		研修医受入（済生会 松山病院1名）	
	18～20		種子島高等学校就業体験学習 19名	
	22、23		職場説明会：Li-Ka1920	
	27		院内保育所 親子参観	
	28		西之表市移住相談会参加：西之表市民会館	
	30		第62回 研修医症例発表会～研修を終えて～ 古殿 一樹先生（済生会 松山病院） 坂田 雅道先生（鹿児島医療センター） 田畑 有弥子先生（鹿児島大学病院）	
	30～31	院内保育所ハロウィン訪問		
	11	1～30	研修医受入（鹿児島医療センター 2名）	
		2	地域がん診療病院がん医療従事者研修事業 『決して軽視してはいけないオピオイド誘発性便秘症(OIC)と薬物治療のお話』 講師：薬剤部主任 濱口 匠	
		8	種子島高校職業人座談会参加 丸野嘉行	
		10	「へいじろう」2023秋 第67号発刊	
		11、12	職場&島見学ツアー 2名参加	
		20	医療安全研修会 『医療安全の心構え』 講師：病院長 高尾 尊身先生	
		23	公開講座 熊本広域高齢者保健福祉圏域地域リハビリテーション広域支援センター主催 『難聴の方への聴こえのサポート』～音や耳の仕組みを知ろう～ ①「音や耳の仕組みを知ろう」講師：言語聴覚士 岩澤 侃汰 ②「聞こえやすい話し方を知り、難聴の方との話し方に活かそう」講師：言語聴覚士 長田 和也	
		23	緩和ケア研修会（PEACE）	
		27	感染防止対策向上地域連携カンファレンス	
		27	第63回 研修医症例発表会～研修を終えて～ 鶴園 尚史先生（鹿児島医療センター） 宮崎 研斗先生（鹿児島医療センター） 中川 卓哉先生（福岡大学病院）	

病院概要

実績

寄稿

部門紹介

院内委員会

関連施設

活動紹介

研究・研修

年	月	日	内 容
令和5年	12	1～30	研修医受入（鹿児島医療センター 2名）
		3	公開講座 『脳卒中のお話』～この症状に気づいたらすぐ119を！～ 脳神経外科部長 駒柵 宗一郎先生
		7	職業人座談会参加：種子島高校
		9、10	職場&島見学ツアー 1名参加
		14	院内感染勉強会 『流行性感染症への対策』～現在の取り組みと今後に向けて～ 講師：感染管理認定看護師 下江 理沙
		16	サロン種子島・クリスマス音楽会 ピアノ演奏：めいろうこども園 音楽教諭 池田 栄子先生 川畑 結愛さん、西 美島さん、高びあのさん、美坂 貴一さん
		18	イルミネーション点灯式
		23	西之表基督教会クリスマスキャロル
		23	病院忘年会：ホテルニュー種子島カラベル
		25	第64回 研修医症例発表会～研修を終えて～ 寺原 真咲先生（鹿児島医療センター） 増田 愛子先生（鹿児島医療センター）
		29	仕事納め
令和6年	1	4	仕事始め
		4	永年勤続者表彰（14名）
		13	公開講座 熊毛広域高齢者保健福祉圏域地域リハビリテーション広域支援センター主催 『ストレスマネジメント』 講師：公認心理師 和田 楓貴
		21	公開講座 第1部・講演 『ペットと暮らすあなたへ気をつけてもらいたい“感染症”～One Health（ワンヘルス）を知ろう～』 ①「動物由来感染症について～保健所の立場から～」 講師：西之表保健所 所長 亀之園 明先生 座長：種子島医療センター 検査室 室長 遠藤 禎幸 ②「種子島の動物病院から見える“感染症”～日常のペットとの生活について～」 講師：エムズ動物病院 院長 上妻 真知子先生 座長：種子島医療センター 薬剤部 主任 濱口 匠 ③「気をつけよう、ペットからうつる感染症」 講師：宮崎県立宮崎病院 内科部長兼感染管理科医長 山中 篤志先生 座長：種子島医療センター 病院長 高尾 尊身 第2部・パネルディスカッション 「One Health（ワンヘルス）に基づき、身近にできること」
		22	院内講演会 『アフリカアイキャンプの活動報告』 講師：副院長兼眼科部長 田上 純真先生
		26	院内感染勉強会 『流行性感染症』（小児診療） 講師：小児科医長 三浦 希和子先生
		29	職員悩み相談室の設置

病院日誌

病院概要

実績

寄稿

部門紹介

院内委員会

関連施設

活動紹介

研究・研修

年	月	日	内 容
令和6年	2	1	馬毛島診療所開設
		1	職員住宅 2棟完成
		1	「へいじろう」2024冬 第68号発刊
		1	種子島中学校 職業講話参加 濱添 信人、丸野 嘉行
		3	避難訓練・消火訓練実施
		8	医療安全研修会 『リハビリテーションにおけるリスクマネジメント』～高齢者ならではのを考える～ 講師：リハビリテーション室 部長 早川 亜津子
		10、11	職場&島見学ツアー 4名参加
		11	公開講座 ①『糖尿病とは?』～飛び出せ糖尿病教室～ 糖尿病内科 科長 久保 智先生 ②『糖尿病について考えてみる』～あなたの健診結果は大丈夫ですか?～ 糖尿病内科 医長 地頭菌 公宏先生
		15	救急患者対応研修会 『劇症型溶連菌感染症例』 講師：種子島産婦人科医院 副院長 鬼ヶ原 幹久先生 種子島医療センター 外科主任部長 大久保 啓史先生 種子島医療センター 診療看護師・副看護部長 竹之内 卓
		16	東京大学体験活動プログラム 12名 受入（西之表市経済観光課企画）
		17	院内勉強会 『ナースのための画像の見かた』 講師：藤田医科大学 副院長 救急集中治療部 部長 有島 拓郎 先生
		19～24	特定業務従事者及び電離放射線業務職員健診
		22	院内勉強会 『感染症診療の基礎』 講師：医療法人鉄蕉会 亀田総合病院 臨床検査科部長 感染症科部長 地域感染症疫学・予防センター長 細川 直登先生
	3	2～24	医療安全研修会eラーニング 『輸液・シリンジポンプの注意点まとめ』 講師：臨床工学室 上妻 友紀
		4	退職講演会① 整形外科 岩崎 正大先生 脳神経外科 山中 彩衣先生 循環器内科 川島 吉博先生 糖尿病内科 地頭菌 公宏先生 消化器内科 松元 琢真先生
		11	退職講演会② 整形外科 岩下 稜先生 循環器内科 下園 夏帆先生 小児科 三浦 希和子先生 外科 佐竹 霜一先生 脳神経外科 駒柵 宗一郎先生
		12	感染防止対策向上地域連携カンファレンス
		13	医局歓送会：ホテルニュー種子島カラベル
		23	「エクスプローラーズ鹿児島」表敬訪問
		24	バスケットボールクリニックin種子島：せいざん病院体育館